

令和2年度

ニホンザル管理事業実績報告書(市町村実施分)

白石市	1 ページ
角田市	2 ページ
蔵王町	3 ページ
七ヶ宿町	4 ページ
川崎町	5 ページ
丸森町	6 ページ
仙台市	7 ページ
山元町	8 ページ
加美町	9 ページ

令和3年8月

宮城県環境生活部自然保護課

白石市

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

	R2計画	R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1) 面積(下段前年度実績)	2.81 ha	3.33 ha ※農山漁村なれない課に報告している数値と整合性をとること	
(2) 金額(下段前年度実績)	2.35 ha 3,166 千円	4,913 千円 ※農山漁村なれない課に報告している数値と整合性をとること	・防護柵等により防除を行っているが、出没範囲が拡大しており、これまで被害のなかつた区域での被害が目立つ。 引き続き追い上げや捕獲、防除対策を強化していく。
(3) 作物 稻、果樹、野菜、いも類	(4) その他		
2 被害防除対策			R2年度被害対策費合計 1,968 千円 ・花火に慣れた個体や群れもあり、効果が一時的である。
(1) 銃器・花火による群れの追い上げ及び捕獲の実施	(1) 実施隊による銃器での追い上げ、捕獲を実施した。追い払い用花火を配布した。		
(2) 電気柵・防護柵の設置に対する補助	(2) 電気柵・防護柵の設置に対する補助を行った。		
(3) 廃棄野菜・生ゴミを適正処理するよう指導の徹底	(3)		
3 個体数管理			
個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	0 頭 50 頭	0 頭 51 頭	・当初計画頭数に近い51頭を捕獲し、被害を軽減できた。
発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數	1 頭 1 頭	2 頭 0 頭	・発信機装着は「新町A群の集団」「越河不明群」に属する各1頭に装着することができた。
4 生息環境管理			
(1) 水稻の被害軽減のため水田周辺の除草作業を推進	(1) 水田周辺の除草作業を推進するよう、啓発を図った。		・急傾斜等による田畠の管理が困難な場所が多く、耕作放棄地も増加しており、地域全体での環境管理が進まない。
(2) 山林に接する耕作地での山林側の除草作業を推進	(2) 山林側の除草作業を推進するよう、啓発を図った。		
5 その他	(1) 被害防除の研修会を開催し、自己防除の啓発を図る	5 その他 (1)	

角田市

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

	R2計画	R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1) 面積(下段前年度)	0.00 ha 0.00 ha	1 被害状況 (1) 面積 ※農山漁村における調査に報告している数値と整合性をとること	0.00 ha ・ハナレザルによる農作物被害の発生はあつたが、軽微なものであった。
(2) 金額(下段前年度)	0 千円 0 千円	(2) 金額 ※農山漁村における調査に報告している数値と整合性をとること	0 千円 ・実施隊員による追い払い、定期パトロールのほか、農業者による追い払いにより、被害を最小限にとどめることができた。
(3) 作物	未成熟トウモロコシ、カボチャ、果樹類	(3) 作物 えんどう豆、未成熟トウモロコシ、ジャガイモ	
(4) その他	(4) その他	(4) その他	
2 被害防除対策		2 被害防除対策 (1) 食べない野菜、果実等放置の防止を周知 (2) 定期的パトロールの実施 (3) 銃器による追い払い、捕獲の実施 (4) 被害内容に応じた諸対策の提案	R2年度被害対策費合計 652 千円 ・地域住民に対し、食物残渣や収穫物を二ホンザルが発見しやすい場所に置かなくなりなど、被害を呼び寄せない対策を推奨するとともに、実施隊員2名による定期パトロールや追い払い等により、ごく軽微な被害にとどめることができた。
3 個体数管理	0 頭 10 頭 0 頭 0 頭	3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數	0 頭 0 頭 0 頭 0 頭 ・昨年に引き続き撲滅に努めたが、捕獲実績はなかつた。 しかし、巡回による被害抑止が図られたものと思われる。
4 生息環境管理	(1) 実施隊パトロール等による生息域の拡大	4 生息環境管理 (1) 実施隊員により、被害防止パトロールを実施した。	・実施隊員による定期パトロールは、地域の出生情報の収集や被害抑止に効果的であり、生息環境の拡大防止に有効と推量される。
5 その他	(1) 住民の被害防止意識の啓発、向上	5 その他 (1) 被害相談時に防止のための自己防護対策等を提案した。	・依然として住民の被害防止意識の向上が課題であり、引き続き被害防止のための備え等、意識向上に努めていくことが引き続き重要な観点と思料される。

令和2年度ニホンザル管理条例の実績と評価（市町村分）

蔵王町

R2計画		R2実績		評価
1 被害軽減目標		1 被害状況		
(1) 面積(下段前年度)	0.01 ha 0.01 ha	(1) 面積 ※農山漁村なりわい課に報告している数値と整合性をとること	0.04 ha	・令和2年度は、山の果実等の実りが悪く、里山への出没が増加し、農作物への被害が前年度より増加した。
(2) 金額(下段前年度)	37 千円 22 千円	(2) 金額 ※農山漁村なりわい課に報告している数値と整合性をとること	36 千円	・被害面積については、目標値を大きく上回ったが、被害金額については、目標値を下回り、計画を達成できた。
(3) 作物 林檎、白菜		(3) 作物 林檎、スイートコーン、白菜、長芋		
(4) その他		(4) その他		
2 被害防除対策		2 被害防除対策		R2年度被害対策費合計 14152千円
(1) 猟器及び有害鳥獣駆逐用花火を併用した効果的な追払いを実施した。		(1) 猟器及び有害鳥獣駆逐用花火を併用した効果的な追払いを実施した。		・巣王町農作物有害鳥獣対策協議会町補助金 9,205千円
(2) 電気柵、耐用性隔障物の設置に対する補助を実施する補助を実施。		(2) 電気柵、耐用性隔障物の設置に対する補助や防除対策等で被害の拡大が抑えられている状況であるため、設置に対する補助金の申請はなかつた。		・野生鳥獣被害防止施設(電気柵等)設置事業補助金 4,070千円
(3) 生ゴミや農作物残渣を適正処理するよう農家へ指導。		(3) 目撲報告等があつた地域で、餌となる収穫作物や残渣を放置しないよう、農家に指導した。		・鳥獣被害対策担い手育成事業補助金 877千円
3 個体数管理		3 個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數 (1) 生息調査の実施。	50 頭 1 頭 1 頭 1 頭	・近年、これまでサルの目撲報告がなかつた地域でも、ナレザル等の目撲報告が寄せられていいため、今後も追い払い活動や防除対策等を継続して実施し、過去の二ホンザルが生息しななかつた町内の自然環境を維持していきたい。 ・捕獲実績はなかつた。 ・発信機装着更新は1頭あつた。 今後もGPS発信機による生息調査を継続的に実施し、群れの個体数や遊動域、利用地域の変化を追うだけでなく、群れのより詳細な利用場所の把握を試み、対策や方針を検討するための基礎データを収集していく。
4 生息環境管理		4 生息環境管理 (1) 山林側との境界付近の除草作業により領域の明確化を図る。		・令和2年度は、山の果実等が凶作だったが、防除対策を強化することにより、里山への出没は減少した。また、山林と耕作地又は宅地との間を除草し緩衝帯を作ることで、二ホンザルの出没を大幅に減少させることができた。
5 その他		5 その他 (1) 南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会との連携して必要な対策を講じた。		・今後も引き続き南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会との広域的な被害対策を実施し、被害拡大防止に努めていく。

七ヶ宿町

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

R2計画		R2実績	評価
1 被害軽減目標	1 被害状況		
(1) 面積(下段前年度)	(1) 面積	0.35 ha	
6.30 ha 1.49 ha	(2) 金額	470 千円	・昨年度と比べ被害面積及び被害額が減少した。 ※幾山池なりわい課に報告している数値と整合性をとることとする。
(2) 金額(下段前年度)	(2) 金額	247 千円	
1,369 千円	(3) 作物	(3) 作物	・電気柵等の設置増加により、農作物被害を減少するに至った。
(3) 作物 水稻、野菜の被害の軽減	(4) その他	(4) その他	
(4) その他			R2年度被害対策費合計 46,491 千円
2 被害防除対策	2 被害防除対策		
(1) 電気柵等設置の推奨	(1) 電気柵等の設置の推奨を行った。		
(2) 追い払い活動の実施	(2) 追い払い活動を重点的に行つた。		
3 個体数管理	3 個体数管理		
個体数調整による目標捕獲数	個体数調整による捕獲数	0 頭	・計画頭数には満たなかつたが、昨年度と比較して、倍の頭数捕獲した。
有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	有害鳥獣捕獲による捕獲数	198 頭	
発信機装着の増設数	発信機装着の増設数	1 頭	・発信機装着数も計画に満たなかつたが、装着及び更新を各1頭に実施することができた。
発信機装着の更新基數	発信機装着の更新基數	1 頭	
(1) 生息調査の実施	(1) 生息調査の実施		
4 生息環境管理	4 生息環境管理		
(1) 取り残し農作物の除去の指導	(1) 指導は行つたが、未収穫農作物等の放置が見受けられた。		・今後も、指導方法の改善及び周知の徹底、追い払い隊による呼びかけ等を積極的に行う必要がある。
(2) 耕作放棄地の軽減	(2) 広報は行つたが、大幅な軽減には至らなかつた。		
5 その他	5 その他		・今後も継続して、効率的な追い払い活動及び生息調査の実施を行う。
(1) 南奥羽鳥獣被害防止広域対策協議会との広域的な被害対策実施	(1) 効率的な追い払い活動及び生息調査の実施、捕獲活動を実施した。		

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

川崎町

	R2計画	R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1) 面積(下段前年度)	0.24 ha 0.34 ha <small>※農山漁村がわい課に報告している数値と整合性をとること</small>	0.16 ha	
(2) 金額(下段前年度)	113 千円 161 千円 <small>※農山漁村がわい課に報告している数値と整合性をとること</small>	198 千円	・年々農作物被害が増加しているが、町へ被害報告を行わない農家が増加しており、被害面積及び被害金額の実態把握が困難になつて、 る。
(3) 作物	果樹類・とうもろこし・デントコーン・かぼ		
(4) その他	(4) その他 (3) 作物 野菜類、果樹類、芋類		
2 被害防除対策			R2年度被害対策費合計 13,022 千円
	・実施隊による捕獲活動の実施 ・電気柵の普及、補助 ・実施隊による週一回の町内パトロール ・狩猟免許(銃、わな)取得補助		①R2農作物有害鳥獣駆除対策業務金 3,324千円 ②サルノバトロール 1,360千円 ③電気柵補助金 8,338千円 (イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル含む)
3 個体数管理			
	個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基数	0 頭 50 頭 0 頭 1 頭	0 頭 50 頭 0 頭 3 頭
			・捕獲頭数について、町の被害防止計画の 捕獲頭数分を捕獲した。 被害は年々増加傾向にあるため、農家への電 気柵等の防護柵の設置の徹底を引き続き指導 していく。 ・発信機装着の更新は、計画より多い3頭実施 した。
4 生息環境管理			
	看板の設置や遊休農地の刈り払いの呼びかけ等の実施。		・計画どおり、実施した。
5 その他	5 その他		

令和2年度ニホンザル管理条例の実績と評価（市町村分）

丸森町

	R2計画	R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1) 面積(下段前年度)	0.10 ha 0.08 ha	0.08 ha	※鳥山湖村なり無い限りに報告している数値と整合性をとること
(2) 金額(下段前年度)	100 千円 179 千円	179 千円	※鳥山湖村なり無い限りに報告している数値と整合性をとること
(3) 作物	水稻、豆類、えんどう、きゅうり、大根、柿、(4) その他	(3) 作物 水稻、豆類、えんどう、きゅうり、大根 (4) その他	
2 被害防除対策			R2年度被害対策費合計 1533 千円
(1) 住民による自主防除対策への支援 ・電気柵設置に対する補助 ・追払い用花火の無料配布(希望者)	(1) 住民による自主防除対策への支援 ・電気柵設置に対する補助 ・追払い用花火の無料配布(希望者)		・電気柵設置に対する補助により、受益者負担の軽減が図られ所期の目的が図られた。
(2) 鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施	(2) 鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施		・鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施 1,533 千円
3 個体数管理			
個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數	0 頭 20 頭 2 頭 0 頭	0 頭 34 頭 0 頭 0 頭	・計画より14頭多い34頭を捕獲した。 ・発信機装着の増設・更新は実施しなかった。
4 生息環境管理			
(1) 耕作放棄地の除草や山林の適正な管理を呼びかける。	(1) 耕作放棄地の除草や山林の適正な管理を呼びかける。		・令和2年8月1日に、町内全戸に耕作放棄地の除草や山林の適正な管理をお願いするチラシを配付した。
5 その他			
(1) 南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会への参加による広域的な対策の研修や他市町との情報交換を行う。	(1) 南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会への参加による広域的な対策の研修や他市町との情報交換を行う。		・発信機装着は実施しなかったが、装着個体を含む群れの遊動域把握に有効であり、それに基づいて追払いを実施し、実施隊員、パトロール員らの連携が効果的に行われた。
(2) チラシ配付、被害防止研修会の開催により、農作物の被害防止の啓発を図った。	(2) チラシ配付、被害防止研修会の開催により、農作物の被害防止の啓発を図った。		

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

仙台市

R2計画		R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1)面積 9a未満 (2)金額 120千円未満 (3)作物 水稻、長ねぎ、大根、白菜、りんご等 (4)その他（人身被害・生活被害）	(1)面積 4.36a (2)金額 110千円 (3)作物 野菜(トウモロコシ、カボチャ等)、柿、栗等 (4)その他（人身被害・生活被害）		・被害面積及び金額について、目標を達成することができた。
2 被害防除対策		R2年度被害対策費合計 6,947千円	
(1)日常的な啓発・注意喚起			
・市HP「サル群れ情報マップ」により、群れの位置情報を公開。 ・サルとの適切な接し方や被害防止対策について、市HPへの掲載や公共施設での啓発チラシの配架等により広報啓発 ・出没が多い地域の地区まつり等で啓発。	(1)日常的な啓発・注意喚起 ・市HP「サル群れ情報マップ」により、群れの位置情報を公開。 ・市HPや啓発チラシにより、サルとの適切な接し方や被害防止対策、農作物収穫後の残さ処理等について啓発。		・計画に基づいた地域住民への日常的な啓発や、追い払い・捕獲を実施したこととに加え、サルの群れの動向を市HP「サル群れ情報マップ」で公開した。
(2)出没情報を受けた際の対応			
・出没地域において、誘引物の除去、周辺の刈り払い・除草、電気柵設置等の被害防止対策の助言・指導 ・必要に応じて、花火等による追い払いを実施 ・被害状況により、地域特性に応じた追い上げや箱わな等による捕獲を実施	(2)出没情報を受けた際の対応 ・必要に応じて、花火等による追い払いや、出没地域の周辺住民への被害防止対策の明言・指導を実施。 ・宮城総合支所管内、秋保総合支所管内において、箱わなによる捕獲のほか、大規模追い上げ・捕獲及び小規模追い上げ・捕獲を実施。		・電波発信機の装着、更新については、県の保護管理計画に基づき加害群を集中的に捕獲するよう調整し、秋保地区と宮城地区では大型捕獲施設を合計4基設置して、5頭を捕獲した。
3 個体数管理			
想定捕獲数 130頭 発信機装着の増設・更新数 15頭(GPS発信機1機を含む)	個体数調整による捕獲数 0頭 有害鳥獣捕獲による捕獲数 63頭 発信機装着の増設・更新数 13頭		・有害鳥獣捕獲については、県の保護管理計画に基づき加害群を集中的に捕獲するよう調整し、秋保地区と宮城地区では大型捕獲施設を合計4基設置して、5頭を捕獲した。
(1)群れの位置情報の把握			
・電波発信機やGPS発信機装着により、群れの位置情報を把握	(1)群れの生息状況管理 ・市内に生息する群れ16群のうち、12群に電波発信機を装着。		下回る16群のうち12群13頭の実績となつた。なお、評価の低い加害群になり得る群れを優先して装着することとし、山間部を遊動域とする群れは対象外としている。(定義山A群、高倉山A群など)
(2)捕獲対策(人里に馴れ、奥山に戻らない群れへの対応)	(2)捕獲対策(人里に馴れ、奥山に戻らない群れへの対応) ・箱わなによる捕獲 32頭 ・大型捕獲施設による捕獲 5頭 ・銃器による捕獲 26頭		
4 生息環境管理			
・群れの位置情報を適切に把握し、地域特性に応じた追い上げや捕獲を実施 ・サルとの適切な接し方や被害防止対策につき、市ホームページや公共施設での啓発チラシの配架等により広報啓発	4 生息環境管理 ・群れの位置情報の把握を随時行うとともに、市鳥獣被害対策実施隊が主体となり、追い上げや捕獲を実施。 ・市ホームページやチラシを活用しサルとの適切な接し方や被害防止対策について、広報啓発。		・計画どおり広報啓発及び追い上げ・捕獲等を実施。
5 その他			

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

山元町

R2計画		R2実績	評価
1 被害軽減目標			
(1) 面積(下段前年度)	0.03 ha ※農山漁村がない課に報告している数値と整合性をとること	0.00 ha	
(2) 金額(下段前年度)	108 千円 0 千円	0 千円	・目撃情報は寄せられたが、被害等はなかった。
(3) 作物	りんご、野菜	(3) 作物	
(4) その他		(4) その他	
2 被害防除対策		R2年度被害対策費合計 3,394 千円	
(1) 緊急出動体制の整備、行政区長を経由して、被害を受けた農家個々が追い払い用の花火により追い払いを実施。			
(2) サルに対して餌付けしないようチラシ等の周知を行う。			・被害等が増えるようであれば様々な防除策を検討する必要がある。
(3) 生ごみや未収穫作物に適正処理するよう農家へ周知。			
3 個体数管理			
個体数調整による目標捕獲数	10 頭	個体数調整による捕獲数 0 頭	0 頭
有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	0 頭	有害鳥獣捕獲による捕獲数 0 頭	0 頭
発信機装着の増設数	0 頭	発信機装着の増設数 0 頭	0 頭
発信機装着の更新基數	0 頭	発信機装着の更新基數 0 頭	0 頭
(1) 昨年度に1頭の捕獲を行った。今後、被害が拡大するようであれば個体数調整のためには捕獲をする必要がある。			・捕獲実績はなかった。 今後は、初動対応として追い払い用の花火を農家個々で実施してもらい、それでも被害が拡大するようであれば捕獲等の対応をしていく必要がある。
4 生息環境管理			
(1) りんご等の摘果作業による摘果物について、適正に処理することを徹底する。		(1) りんご等の摘果作業による摘果物について、適正に処理することを徹底する。	・放置された農作物が誘因の原因(餌付け)になつていることとも考えられるため、引き続き、農家に周知を徹底する必要がある。
5 その他		5 その他	

令和2年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

加美町

R2計画				R2実績				評価	
1 被害軽減目標		1 被害状況							
(1) 面積(下段前年度)	1.25 ha 8.70 ha	(1) 面積 ※農山漁村なりわい課に報告している数値と整合性をとること	3.00 ha	(2) 金額 ※農山漁村なりわい課に報告している数値と整合性をとること	930 千円	(3) 作物 水稻・野菜・果樹・イモ類・野菜	(4) その他	被害額は減少してきている。 目撃情報から群の状況も変わってきており、 が見受けられる。	
(2) 金額(下段前年度)	371 千円 2,386 千円	(2) 金額 ※農山漁村なりわい課に報告している数値と整合性をとること		(3) 作物 水稻・野菜・果樹・イモ類・野菜		(4) その他		R2年度被害対策費合計 16,915 千円	
(3) 作物 水稻・果樹・イモ類・野菜				(1) 電気柵による烟への侵入防止				(1) 電気柵による煙への侵入防止	
(4) その他				(2) ワイヤーメッシュ柵による農地への侵入防止				(2) ワイヤーメッシュ柵による農地への侵入防止	
2 被害防除対策		2 被害防除対策		(3) 音花火による追払い				(3) 音花火による追払い	
(1) 電気柵による烟への侵入防止。		(1) 電気柵による煙への侵入防止		(4) ワナ、銃器による捕獲実施				(4) ワナ、銃器による捕獲実施	
(2) 被害防除機材への導入助成。		(2) ワイヤーメッシュ柵による農地への侵入防止		(5) サル用囲い、わなによる捕獲				(5) サル用囲い、わなによる捕獲	
(3) 音花火による追払い。									
(4) 箱わな、銃器による捕獲、威嚇									
(5) サル用囲い、わなによる捕獲									
3 個体数管理		3 個体数管理		個体数調整による捕獲数 有害鳥獣捕獲による捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數	0 頭 50 頭 0 頭 0 頭	個体数調整による捕獲数 有害鳥獣捕獲による捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基數	0 頭 24 頭 0 頭 0 頭	・サル用囲い、ワナで15頭捕獲し、有効性が確認 できた。(それ以外は個別にワナで捕獲され た。)	
				(1) 箱わなによる捕獲頭数の向上				(1) 箱わなによる捕獲頭数の向上	
				(2) 実施隊によるパトロール				(2) 実施隊によるパトロール	
4 生息環境管理		4 生息環境管理		(1) 放置された果樹のもぎ取り処分の推進				・宮城県の調査事業でサルの生息調査の実施	
				(2) 耕作放棄地の刈払いの推進					
5 その他		5 その他		(1) 広報誌等での鳥獣被害防止協議会活動周知					
				(1) 町ホームページでの捕獲事業の周知					

